

実施報告書

第31回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ

ミキハウスカップ東京2021

実行委員長 野村 泰造

(一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟 理事)

はじめに

令和3年10月24日(日)、第31回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ(ミキハウスカップ東京2021)を東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所に於いて開催致しました。

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟(以下JJYUという)と一般社団法人東京都セーリング連盟の共同主催で、特別協賛を「三起商行株式会社(ミキハウス社)」様に頂き、スポーツ庁、外務省、公益財団法人日本セーリング連盟(以下JSAF)の後援を頂きました。若洲ヨット訓練所の管理会社NPO法人マリンプレイス東京、一般社団法人東京都セーリング連盟、若洲ヨットハーバーで活動されている夢の島ヨットクラブ、江東ジュニアヨットクラブ、江東区立小中学校セーリング部の指導者・保護者の皆様の協力を頂いて無事に大会を開催出来ましたことに御礼申し上げます。

今回のレガッタも新型コロナウイルス感染継続状況から日本全国でヨットを含めたあらゆるスポーツ大会が中止となる中で、レースに出場したいと熱望するジュニアの為に何としてでも開催するという信念のもと、JSAF、スポーツ庁の指導に沿った大会運営マニュアルに従って、JJYU、NPO法人マリンプレイス東京、一般社団法人東京都セーリング連盟の3者で入念に準備を行い、中止する事なく昨年が続いて継続開催出来ました。

参加数は、昨年の9クラブ33艇から大きく増加、13クラブ80艇(OP級初級者クラス30艇、OP級上級者クラス40艇、レーザー4.7 4艇、国際420級 6艇)(選手87名)のエントリーがありました。その後前日までに2名の参加取り止めの連絡があり、クラブの指導者・保護者113名に運営役員・委員50名と総勢248名参加の大会となりました。

運営役員、スタッフは昨年同様に二週間前から健康に留意しソーシャルディスタンスを保ちながら集合、7時30分には、スマートフォンのLINEオープンチャットによるエントリー方式で参加受け付けと感染防止対策チェック項目の登録を行いました。

フィッティングの合間にクラブ毎に参加賞として例年よりグレードアップしたミキハウス様提供の記念品を渡しました。



東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所



フィッティング風景



運営ミーティング



開会式での須長選手



ミキハウス様からの記念品

開会式

8時30分より開会式を行ないました。

冒頭に、8月にお亡くなりになられた東京都セーリング連盟元会長代行鈴木修様のご冥福をお祈りして黙祷を参加者全員で捧げました。その後伊藤雅宣 JJYU 副会長が開会のご挨拶をしました。

皆様のご協力により、マスク着用と密を避けての約10分程度の時間で滞ることなく執り行う事が出来ました。開会式に引き続き A 海面は谷口弘次レース委員長のもと、B 海面は森田光一副委員長のもとスキッパーズミーティングが手短に行われました。



黙祷



伊藤副会長ご挨拶



スキッパーズミーティング A海面



B海面

レース

第1レース予告信号の頃から風がなく暫く陸上で風待ちとなった為、時間的にOP級上級者クラス、レーザー4.7、国際420級は2レースしか実施出来ませんでした。OP級初級者クラスは予選6レースと決勝3レースを実施出来ました。

OP級初級者クラス

今大会も昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先し、レースエリア、コース設定、出艇・帰着申告方法も工夫しての開催となりました。

OP級初級者クラスのレースエリアは従来の通り若洲ヨット訓練所前ポンド内に設定出来、コーチや保護者の控えめの声援の中ヨットレースを体験出来ました。

3つのディビジョンに分け各2レースの予選を行い、各ディビジョン上位1～3位をゴールドクラス、4～6位をシルバークラス、以下をブロンズクラスに分けました。

決勝戦は、ブロンズクラスからレースを行い上位3艇をシルバークラスに繰り上げ参戦させ、シルバークラスから上位3艇をゴールドクラスへの勝ち上がり戦といたしました。その結果、ブロンズクラスから勝ち上がった選手が、なんとゴールドクラスで4位を取る結果となりました。

初心者クラスは、まさにレースごとに成長する姿を目の当たりにいたしました。



B海面 本部船



OP級初級者予選スタート風景



上マークの攻防



陸からの指導者の声援

OP 級上級者クラス

選手ブリーフィング終了後、レース海面に風がなく、風待ちからのレーススタートになりました。

【第1レース】

国際 420 級、レーザー4.7 : 140°、4knot、S~1 : 500m、1~2 : 250m、2~3 : 500m

OP 級上級者クラス : 120°、4.5knot、S~1 : 500m、1~2 : 250m、2~3 : 500m の設定をしました。

11時過ぎから風が吹き始めたので、D旗を掲揚し陸上待機していた全艇出艇。レース海面に全艇が集まったことを確認し、SI 通り国際 420 級、レーザー4.7、OP 級上級者クラスの順でスタート。

潮の影響もほとんどなくコンディションの良い状態でのスタートになりました。

OP 級上級者クラスはスタートギリギリで多数の選手がスタートラインを越えたため、黒色旗で再スタートとして、ベストに近いスタートになりました。レース中は±20°に近い風軸の振れがあり、振れ、ブローを感じてレース出来た選手がよい成績を出していました。

【第2レース】

国際 420 級、レーザー4.7 : 120°、4knot、S~1 : 500m、1~2 : 250m、2~3 : 500m

OP 級上級者クラス : 150°、3.5knot、S~1 : 400m、1~2 : 200m、2~3 : 400m の設定をしました。

国際 420 級、レーザー4.7 のレース中に一旦風が無くなり、それぞれ2回目の2マークと、3マークでのショートニングによるフィニッシュとなりました。

OP 級上級者クラスは、予定時間ギリギリに黒色旗でスタートし、風が弱かったので短めのコースではあったものの、予定通りのコースでフィニッシュとなりました。



国際 420 級のスタート



トップ争い



レーザー4.7のスタート 第1レース



第2レース



OP 級上級者 第1レースのスタート



スタート直後の攻防



サイドマークに向かうトップ艇



サイドマークの攻防



サイド下から都心を望む



フィニッシュライン

クラブ対抗レース

- 優勝 江の島ヨットクラブジュニア
- 2位 葉山町セーリング協会
- 3位 横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ

OP 級上級者クラス

- 1位 児島 惟高 江の島ヨットクラブジュニア
- 2位 岩波 将吾 江の島ヨットクラブジュニア
- 3位 岩波 萌夏 江の島ヨットクラブジュニア

- 4位 重松 陽 夢の島ヨットクラブ
- 5位 濱川 航英 海陽海洋クラブ
- 6位 松永虎汰郎 江の島ヨットクラブジュニア

OP 級初級者クラス

- 1位 源関 新 横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ
- 2位 井上 雅治 葉山町セーリング協会
- 3位 岩崎 七飛 葉山町セーリング協会
- 4位 和田 晏奈 横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ
- 5位 関口 玲 夢の島ヨットクラブ
- 6位 三浦 波珠 葉山町セーリング協会

レーザー4.7 クラス

- 1位 北 七斗 江東区立小中学校セーリング部
- 2位 北浦 菜月 ユースチーム東京
- 3位 浦部 天音 ユースチーム東京

420 クラス

- 1位 上条久美子/荒木 結香 ユースチーム東京
- 2位 松原 啓悟/須藤紗亜紗 ユースチーム東京
- 3位 近重幸士朗/小沢菜々美 江東区立小中学校セーリング部

表彰式・閉会式

15:00 表彰状は後日各クラブに送付することで時間短縮を図り、予定の16:30よりも早めて閉会式・表彰式を行いました。昨年同様コロナ禍の中でのレガッタということで開催が危ぶまれましたが、最後まで気を抜かず、終日参加者全員マスク着用で安全を重視しつつ滞りなくかつ適度の緊張のなかで行われたことが良かったと思います。

レース講評はレース委員長谷口弘次さんから頂きました。

「コロナ禍の中で練習も儘ならなかった時期もあったので練習不足だったと思います。今日1日を通して微風域でのレースとなりました。心身ともに万全の準備でレースに臨むことが出来るかが良い結果を出すカギになったのではないかと感じた。」という事でした。

「選手の皆さんが更なるステップアップをし、来年の今大会でお会いできることを期待しております。」と締めくくりました。

引き続き表彰式があり成績上位の方々が表彰されました。

また三起商工株式会社（ミキハウス）様を代表して光川取締役社長室長からご挨拶をいただきました。

皆様の協力により表彰式・閉会式も現状を考慮した短い時間にコンパクトかつ厳かに進める事が出来ました。

【医療救護委員からの報告】

参加受付前での非接触型体温計での計測は時間短縮と密を避けるために JJYU 役員のみ行いました。

競技中は、低体温症や外傷の選手もなく無事、終了することが出来ました。

前回はクラブごとに纏めて感染防止対策チェックシートを提出して頂いたが、指導者・保護者、運営役員各個人が、感染防止対策チェック項目をスマホの LINE 利用で、当日の開会式前に報告登録して頂いた為、より安全に管理する事が出来ました。

最後に

毎年特別協賛を頂いている三起商工株式会社（ミキハウス）様、協力をいただいた各団体、企業の皆様と NPO 法人マリンプレイス東京、一般社団法人東京都セーリング連盟、若洲ヨット訓練所のスタッフの皆様、夢の島ヨットクラブ、江東ジュニアヨットクラブ、江東区立小中学校セーリング部の指導者・保護者の皆様のご協力に改めて感謝と御礼を申し上げます。



谷口レース委員長レース講評



記念品を手渡すミキハウス須長選手



国際 420 級入賞者の皆さん



レーザー4.7 入賞者の皆さん



OP 級上級者入賞者の皆さん



OP 級初級者入賞者の皆さん



クラブ対抗レース優勝の江の島ヨットクラブジュニア



ミキハウス光川取締役のご挨拶

以上